

や

っぱりええなあ。総社のまち
(最終回)



地域の絆でおもてなし

総社市消防署の北側の参道を西に進むと御崎神社があります。この神社は、門田と小寺地区の住民の氏神として親しまれていて、正月には両地域の若者たちが中心となって、手作りの年越し行事でもてなします。

大晦日の深夜、参道口にある鐘突堂では、小寺地区の若者たちで組織する小寺青雲会が、除夜の鐘突きを行います。この行事は、20年ほど前から行っているもので、初もうでに訪れる人たちがそれぞれの思いを込めて鐘を突きます。

元旦を迎える社殿には、門田地区の門田青年という若者たちのグループが、畳3畳分ほどの巨大な絵馬を作り奉納しま

す。参拝者らは脚立に上り、この絵馬に願いごとを思う存分書き込みます。また、境内では早朝からぜんざいやミカン、菓子などが振る舞われます。この催しは、門田と小寺の若者たちが協力して行います。用意するぜんざいは300人分。準備の苦労が察せられます。

さらに境内では、新年を祝う獅子舞の初舞を奉納。この獅子舞は、太鼓やかねなどが奏でる軽快な囃子に合わせて舞います。今から170年ほど前から小寺地区に伝わるものですが、戦後間もなくから途絶えていました。平成4年に総社小寺古典獅子舞保存会により再興され、現在は大切に守り伝えられています。

獅子舞にはその後、笛を吹く小学生たちも加わり、小寺地区内の1年の無事を願って一軒一軒おはらいをして回ります。また、子どものいる家では、泣きじやくる子の頭を口でくわえるパフォーマンスも交え、元気に育つようにと願います。町内の約200軒全てを回り終えるのは、夕方になるとのことです。

毎年、これらの行事に参加するメンバーの一人は、「今まで続けてこれたのは、喜んでくれる地域の皆さんの温かい後押しがあったからこそ」と話します。この言葉に地域の絆の深さを感じました。

問い合わせ まちづくり支援室まちづくり支援係 ☎08242

介

護保険
(最終回)

住み慣れた地域で 元気に暮らすために

～地域包括支援センター
西部地域ステーションの活動から～

一人暮らしのAさんは、腰痛がひどくなり、昨年手術を受けました。その後の経過は良いのですが、歩くときには支えが必要で、長時間立つたままの動作が困難になりました。そこで、介護保険の認定を受け、ホームヘルプサービスやデイサービスなどを利用しながら生活しています。

一人での生活は、何をするのもおっくうになることがあるそうです。しかし、自分ができる範囲で、ホームヘルパーといっしょに料理や掃除をすることが、日々の生活の張り合いになっていくそうです。また、交通の便が悪く、買い物をする商店が少ない地域では、

ホームヘルパーの買い物の援助も大きな助けになっています。

Aさんはデイサービスで、筋力をつけるため、運動の指導を受けています。家でもできるだけ体を動かすようにしています。その効果もあり、いすに座っていた食器洗いも、短時間なら立つてできるようになりました。

とても前向きに生活しているAさんは、「近いところでもいいから、旅行に行けるぐらいになりたい」という目標ももっています。でもそんなAさんも、「人と話さぬ日があると、気がめいるなあ。これが続く」と心の病気になるんじゃないかなあ。だからと話をするだけで

元気になれるわあ」と少し寂しそうに話しました。

介護保険のサービスには限界があります。身体の機能が低下するようになっても、住み慣れた地域で元気に暮らすためには、地域での支え合いが必要です。「ふれあい元気のもと」。地域包括支援センターの活動の軸は、個人と地域、両方の支援にあります。今後も、地域の人の力が発揮でき、住民同士がふれあえるような活動の支援をしていきたいと思っています。お気軽にご相談ください。

問い合わせ 介護保険課地域包括支援センター ☎08244

健

康アドバイス (吉備医師会から)



松尾久美子 医師

疥癬について

疥癬は、ヒトカイセン虫(ヒゼンダニ)が皮膚の角層内に寄生して、ヒト肌からヒト肌へと感染する感染性の皮膚病です。寝具や肌着などからも感染するので、病院内や老人福祉施設での集団感染や、家族内感染もあります。また、潜伏期間が1か月と長いので、治療が遅れることもあります。

症状は、小さい丘疹(ポツポツ)が多発し、かゆみが強く、特に夜間激しくなります。陰部、胸、わきの下、指間などの皮膚の軟らかい場所にわりに多く発生します。手のひらや指間には、長さ数ミリの線状に少し盛り

り上がった疥癬トンネルが見られます。ここにカイセン虫が住み、卵を産みつけていきます。疥癬によく似た皮膚病は数多くあるため、しばしば誤診されています。例えば、虫さされやアトピー性皮膚炎、老人性乾燥湿疹、妊婦痒疹、慢性湿疹、水虫、爪水虫などです。

診断は、皮膚の一部をこすり取り、顕微鏡で、カイセンの虫体や卵を確認します。この検査は外来で可能で、所要時間は数分です。なお、発見できなくても疑わしい場合は、何度か検査を追加することもあります。

治療は、原因となる虫を駆除する

錠剤を内服することで十分な効果が得られます。また、軟膏の殺ダニ剤の外用も効果的です。疥癬は正確な診断と治療で必ず治る病気です。しかし、治療後に再発・再感染の可能性があるため、1か月間は注意深く経過をみる必要があります。

ヒト肌からヒト肌へ感染する感染性の皮膚病には、疥癬やほかにも水虫、トビヒなどがあります。日ごろ感じたことのないような、強いかゆみを感じたら、早めに皮膚科の診断を受けるようにしましょう。早期発見、早期治療が症状の悪化を防ぎ、感染の拡大も防ぎます。

市

長室から

『卒業』

2月3日の節分を過ぎると翌日は立春。

日、一日と暖かくなり、すでに3月になりました。あちこちで梅の便りが聞こえてくる。

春は、生きとし生ける者にとって待ち望んだ季節でありすべての植物、動物が活動を再開する季節でもある。

越冬の苦労から解き放される時でもあり、わくわくする心、躍動する弾む心が英語の「春」、スプリング(Spring)の語源となっていると聞く。これは子どもはもちろんのこと、大人にも共通した感情ではないかと思う。

3月は、卒業のシーズンです。「下に上下の節目あり」とよく言われますが、卒業はまさに人生の節目であると同時に新たな出発のときでもあります。

人生はドラマであり幼稚園、保育園から大学に至るまで卒業に伴い多くのドラマが展開されます。

自分の希望どおりの進学・進路を歩む人、そして、希望が叶わなくて、自分の意思と異なる道を歩む人、さまざまな局面があると思います。が、「人間万事塞翁が馬」失敗や挫折が幸の道に通じていることはよくあることです。

土光敏夫さんも入学試験に失敗しているという自伝に記されておりますが、すばらしい人生を送られております。要は、本人のやる気と努力です。

一人ひとりが、われわれ祖先の貴いDNA「日本人魂」を発揮して頑張っていたら、もう少し切望いたします。人間、最も困難な局面に直面したときあるいは、すこぶる感激したとき、DNAのスイッチが入ると言われておりますが、ここで卒業されるすべての皆さんがすばらしい人生を送られますようお祈りいたします。

総社市長 竹内 洋二